２０１９年（令和元年）８月６日　火曜日
東奥日報　１０面　掲載

光星ナイン 狙え頂点

夏の甲子園高校野球 きょうから

第101回全国高校野球選手権大会が6日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開幕する。全国の代表49校が頂点を目指し熱戦を繰り広げる。2年連続10回目の出場となる本県代表の八戸学院光星高校（八戸市）は大会初日の同日、午前10時半からの開幕試合で愛知県代表の誉と対戦する。

誉（愛知）と開幕試合

「二つの負け」の悔しさが県大会優勝のバネになった。一つ目はセンバツ。広陵（広島）に3安打完封され、1回戦で敗退した。二つ目は春の県大会。初戦で青森山田相手に夏のシード権を失う屈辱の敗戦を喫した。「チームがばらばらになりかけ、仲たがいもあった」と武岡龍世主将は振り返る。それでは勝てない―と、選手で自主的にミーティングを重ねた。チームの雰囲気が良くなり、夏前には「いける」と手応えをつかめたという。

ノーシードで臨んだ今夏の県大会は主軸の近藤遼一、原瑞都を中心に全6試合で15本塁打をたたき出し計72得点を挙げる圧倒的な攻撃力を見せた。わずか2失策の堅守も光った。

2年連続同一カードとなった聖愛との決勝では、初回に近藤の3点本塁打や続く四番原のソロなど打者一巡の猛攻で8点を挙げ、一気に勝負を決めた。

7月26日、八戸市美保野にある八学光星の練習グラウンド。1死一、三塁でスクイズなど具体的な場面を想定した走塁練習などを行い、念入りに連携を確認した。仲井宗基監督は「夏の甲子園で鍵を握るのは、クリーンアップを中心とした打線の活躍とエース後藤丈海の復活」と指摘。「一戦必勝で本県代表にふさわしい良い野球をしたい」と前を見据えた。

スクイズなど細かい場面を想定した走塁練習を行う
八学光星ナイン＝7月26日、八戸市美保野の練習場

夏の甲子園出場を決め、喜びを爆発させる八学光星ナイン＝7月23日、弘前市のはるか夢球場

メンバー

背番号	守備	氏名	学年
1	投	山田 怜卓	3
2	捕	太山 皓仁	3
3	一	近藤 遼一	3
4	三	伊下 昂世	3
5	遊	武岡 龍世	3
⑥	左	大江 拓輝	3
7	中	島袋 翔斗	3
8	右	原 瑞都	3
9	投	横山海夏凪	3
10	投	渡邊 太楼	3
11	捕	小林 嶺太	3
12	一	丸山 雄哉	3
13	二	大野 僚磨	3
14	三	道江 勇斗	3
15	投	後藤 丈海	3
16	左	川上 巨輝	3
17	中	澤波 大和	3
18			

責任教師・小坂 貴志　監督・仲井 宗基
※背番号の○は主将

感謝の気持ち 一戦一戦に

八戸学院光星高等学校校長 小野崎 龍一

第101回全国高等学校野球選手権大会青森県大会において、本校硬式野球部は、数々の熱戦の末優勝の栄に浴することができました。これもひとえに、地域の皆様、外郭団体等学校関係者の皆様の温かいご声援、ご支援の賜と心より厚くお礼申し上げます。青森県代表として2年連続通算10回目の夏の甲子園、そして春夏合わせますと20回目の甲子園出場となります。

令和という新しい年を迎え、第101回という記念すべき今大会では、必ずや青森県民、そして東北勢の悲願でもある深紅の大優勝旗を勝ち取り、甲子園の歴史にその名を刻みたいと念願しております。試合本番では、光星らしい力強く溌剌としたプレーを展開し、一戦一戦に感謝の気持ちを託しながらチーム一丸となって戦い抜く覚悟ですので、何とぞ選手の背中を押す熱い応援をお願い申し上げます。

走攻守に安定感

春夏通算20回 屈指の強豪校

夏の甲子園は2年連続10回目の出場となる八戸学院光星高校。前身の光星学院時代を含め、今回で春夏通算20回（春10回、夏10回）出場の輝かしい戦績を誇り、甲子園常連校として知られる。

初めて甲子園の土を踏んだのは創部40年目の1997年春のセンバツ。以降は3季連続で出場したが、1勝が遠かった。4回目の出場となる2000年夏の大会で念願の初勝利を果たし、ベスト4入り。01、03年にも8強入りするなど、00年以降は夏は初戦敗退が一度もない。

11年夏、12年春、同年夏には3季連続で決勝に進出。11年夏は強打の日大三（東京）に、12年春・夏は藤浪（阪神）擁する大阪桐蔭（大阪）に敗れ、悲願の全国制覇には、あと一歩及ばなかった。しかし、甲子園大会で3季連続準優勝という、長い高校野球史にも例のない、輝かしい成績を残し、八学光星の名前は屈指の強豪校として全国区となった。

「今年は走攻守のバランスが非常に良い」と仲井監督が評する光星ナインが、聖地でどんなプレーを見せてくれるのか。「投手を中心に守備面で粘って勝つのが自分たちのスタイルなので、そういう所を甲子園でアピールしたい」。武岡主将は目を輝かせた。

東北勢の悲願と言われ続ける深紅の大優勝旗の「白河越え」へ。八学光星ナインに大きな期待が寄せられている。

私たちもエール！

堀合遥希さん（3年、生徒会長）　春・夏2大会の甲子園出場は本当に素晴らしいこと。一試合一試合全力を尽くして大切に戦ってほしい。東北勢の甲子園制覇はまだないので、光星ナインが初の優勝旗を勝ち取ってくれることを期待している。

三津谷花月さん（3年、吹奏楽部長）　以前、甲子園で対戦して負けた龍谷大平安（京都）などの強豪が今回は出場しないので、その分チャンスがあると思う。甲子園では新しく3曲増やし、応援にも熱が入っている。野球部と一緒に盛り上げたい。

滝川愛実さん（3年、チアリーディング部長）　去年の甲子園に武岡現主将と下山昂大選手らが出場していて、同学年として応援していた。今年も聖地で応援できてうれしい。対戦相手に声援で負けないように、自分たちも頑張りたい。

企画・制作　東奥日報社広告局

八学光星の甲子園最終戦績

1997年春	1回戦	岡山南（岡山）
同 夏	1回戦	佐賀商（佐賀）
98年春	2回戦	豊田西（愛知）
2000年夏	ベスト4	智弁和歌山（和歌山）
01年夏	ベスト8	近江（滋賀）
03年夏	ベスト8	東北（宮城）
06年春	1回戦	関西（岡山）
09年春	1回戦	今治西（愛媛）
11年春	2回戦	智弁和歌山
同 夏	準優勝	日大三（西東京）
12年春	準優勝	大阪桐蔭（大阪）
同 夏	準優勝	大阪桐蔭
14年春	2回戦	龍谷大平安（京都）
同 夏	ベスト8	敦賀気比（福井）
15年春	2回戦	大阪桐蔭
16年春	2回戦	龍谷大平安
同 夏	2回戦	東邦（愛知）
18年夏	2回戦	龍谷大平安
19年春	1回戦	広陵（広島）

東奥日報社提供